

【全校演劇】

全校生徒がキャスト、スタッフとして演劇に取り組みました。今年度は、落語「目黒のさんま」になぞらえた、オリジナル劇「大島のホタテ」を演じました。



【全校合唱】

大島が生んだ詩人 水上不二氏が作詞した「アスナロウの木」を全校で合唱しました。また市内小・中学校音楽祭でも、大島小学校の児童の皆さんと一緒に、発表しました。



【船から見た大島】

遊覧船に乗り、船から大島の写真を撮影しました。4月に開通する「気仙沼・大島大橋」の下をくぐったり、大島の姿を船上から眺めることで、「緑の真珠 大島」の良さを改めて確認できました。

《フォトギャラリー（生徒の作品）》



宮城県気仙沼市立大島中学校

住 所 宮城県気仙沼市高井 40番地
電 話 0226-28-2610 FAX 0226-28-3255
E-mail ohshima-chu@kesenuma.ed.jp
U R L <http://kesenuma.ed.jp/ooshima-cyuu/>



30年後の大島に伝えたいこと



平成30年度「総合的な学習の時間」報告

大島のツバキについて

○メンバー：[3年 沙蘭 香月 夕里]
[2年 遙香 明里] 1年 舞優

○椿 (ツバキ)

・ツバキ科ツバキ属の常緑樹の照葉樹の代表的な樹木
・花びらは5〜7枚(八重咲きもある)
・色は、赤、白、ピンク、赤紫がほとんど
く(花言葉)
赤 「控えめな素晴らしい」「謙虚な美德」
白 「完全なる美しさ」「至上の愛らしさ」
ピンク 「控えめな美」「控えめな愛」



○ツバキ収穫体験

私達は、9月26日(水)に老人クラブの村上さん小松さんに椿について話を聞いたり実を収穫しに行きました。高杉切りはごみを集めて高いところのツバキを取ったり大島に咲いているツバキの種類をきいたりしました。



○まとめ

私達は今回の活動を通してより椿について知ることが出来ました。これから私達が収穫した椿を油にして来年度に販売する予定です。また椿のラベルの案が通れば新しいデザインで販売されます。この活動は大島にと、とても身近なことだと思えます。

気仙沼大島の柚子について

○研究目的
大島には、様々な有名な食べ物がありますが、私達は大島の柚子について、も、とくに柚子について、30年後の柚子について調べてみました。

○柚子の生態
ミカン科カンキ属 色は黄緑色 花の色は白、わがが葉、原産地は昔の中国珠江上流、日本に渡ったのは、奈良平安には植えられている。大きさは1枚5〜70cm、直径15〜5mm、葉60×30mm程。寒さには強い。ほこはこの面の厚さは5〜6mm

○効能
新陳代謝を活性化させ体温を上げる効果がある
疲労回復、免疫強化、鎮痛作用など
皮膚ガンの抑制効果があります。柚子に含まれる成分リモネンは保湿効果があります。

○柚子のレシピ
柚子ジュラム

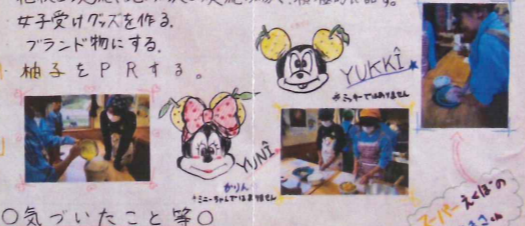
材料) 柚子の皮 柚子の肉 グラニュー糖 200g
作り方) 柚子の皮を洗って、水気を拭き、柚子の皮を細かく刻む。柚子の皮を油で炒め、柚子の肉を一緒に炒め、グラニュー糖を加えて煮詰める。完成!

柚子アイス

材料) 生クリーム 300cc グラニュー糖 大さじ3
マーマレードシム 大さじ1 卵黄 4個
柚子のすりおろし 小さじ1
作り方) ホールに卵黄グラニュー糖を入れて混ぜる。そこに生クリームと柚子のすりおろしを入れてよく混ぜ合わせる。→アイスクリーマーに入れて良い感じに固まるまで待つ。完成!

○早口言葉
柚子好きが柚子ジュースの柚子好き
○30年後の大島の柚子
私たちの世代が大島の柚子を世に広めPRしていかなければ大島の柚子は売れなくなり悲しいです。日本の柚子生産は徳島で今も、という柚子が一番の売り上げです。なので私たちがPRしないと30年後大島の柚子は売れなくなり悲しいです。私たちが世に広めようという30年後の柚子は、私たちが考えます。

○自分達(中学生)にできること
他校との交流や地域の人の交流の場で積極的に話す。女子受け皿を作る。ブランド物にする。柚子をPRする。



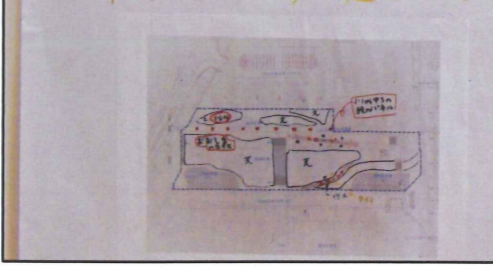
○気づいたこと等
柚子は、こう何にでも合う。自分は柚子が好きではないが、たけのこや、マミが好きな。たし、興味をもちました。香りがとても良く料理に適している。ジェムにすると、パリパリの味になる。
製作者 菅原輝星 小野寺涼真 吉野桃矢 阿部華康



浦の浜漁港公園デザイン

○どんな公園にしたいか 人が集まる公園
・来島者へ向けて、気仙沼大島をPRできる場所
・来島者と島民が交流し、憩える場所
・私達中学生が大人になりこの公園を訪れたとき、デザインした時思い出しいい懐かしさを感じる場所
・自然が豊かで、四季の変化を感じることでいい場所

私たちが考えた案です



ココがポイント!!

現在大島小中学校に植えられていて、数年後は巨木になる様です。気仙沼市の方から見るとなるのでシンボルツリーになるのではないかと考えました。
「おおしま」の花文字
来島者が大島を訪れて、最初に見るシンボルです。花文字を見ることが「大島に来たんだ」と感じることで大島のPRになると考えました。
小中学生の絵のパネル
小学校1年生から中学校3年生まで考えた。大島に関連する絵を描いてパネルとして設置します。設置することによって私達が大人になってからも子供時代を思い出したり、自分達がこの公園デザインに携わったという事が形になると考えました。そして、防波堤が色鮮やかになり、島民にとっても防波堤の暗いイメージが無くなると思います。

まとめ
今回防波堤の上にできる公園のデザインのお話をいただき感謝しています。大島の復興が加速してきて、強く感じました。このことをきっかけに大島が震災前以上に活気あふれるまちになるよう中学生なりに努力していきたいです。



島ゼミ海洋

1 海の環境(磯の環境)の生態調査

2 地球環境から見た大島の環境

3 気仙沼と全国との比較

30年後の大島に伝えたいこと

大島で行っている養殖を受けついでいく!! 伝統をうしなわない!! 1年 藤田 珠理 2年 石川 彩美

【つばきコース】

大島に自生するつばきの生態調査と、大島地区老人クラブ連合会の方と協力し、椿の実の採取を行いました。椿油のボトルに貼付するラベルのデザインを考えました。



【ゆずコース】

大島の特産であるゆずの生態について、ゆず農家への聞き取り調査を行いました。また、ゆずの活用方法について島内の飲食店で、ゆずジュラムなどの調理実習を行いました。



【まちづくりコース】

宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部の方の指導のもと、浦の浜に建設される、防波堤の頂上部分にできる公園デザイン案を考え、提案しました。



【海洋コース】

海洋ごみ(漂着ゴミ)と地球温暖化などの環境への影響について調査しました。また、ホタテ養殖について、大島と他地域の比較をしながら調査しました。



【海洋教育の取組】

I ホタテ養殖体験学習
宮城県漁協大島出張所青年会及び女性部のご協力のもと、小学6年生から中学3年生まで、4年間に渡ってホタテの養殖体験学習を行っています。

【1年】

ホタテ貝に付着した貝や海藻を除去します。その後、ホタテの耳に穴を開け、ピンを通したものをロープに差し込みます。最後に約20枚のホタテをつけたロープを本校専用の筏につるします。



【2年】

前年度までに育てたホタテを水揚げし、付着物を除去した後、養殖業者の方を通して、市場に出荷していただきます。(今年度は出荷の様子をビデオで視聴しました。)



【3年】

ホタテのむき方を教えていただきました。また、ホタテご飯の作り方を教わったり、オリジナルのホタテ料理を作ったりした後、みんなでおいしく試食しました。



II 海洋教室・海洋講話の開催

国土交通省東北運輸局主催の「海洋教室」に参加し、「大島汽船」等、海に関する職業の方々から、講話をいただきました。また、建設中の「みらい造船」の見学や船上から大島の写真を撮影しました。

気仙沼水産試験場や東北大学の先生から、海に関するお話をしていただきました。



III ソーラン演舞

大島中の伝統である「大島ソーラン」。今年も大島小・中学校合同運動会で、小学生と一緒に勇壮な舞を披露しました。また震災を機会に始まった目黒区立東山中学校との交流会で、踊り方を指導し、交流を深めました。



III そのほかの活動

① 權ねり体験学習
1年生の生徒が地元漁師のみならずから「權ねり」の方法とウニの採集方法を教えていただきました。

② 海洋教育子どもサミットへの参加
全校生徒で海洋教育子どもサミットに参加しました。自分たちの取組を発表するとともに、他校の取組を知ることができました。

